高松泉キリスト教会　ニュースレター
第 167 号（2024 年 1 月号）

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
http://izumichurch.holy.jp/
発行人　宮地　宏一

HAPPY NEW YEAR 2024

2024 年、今年もよろしくお願いします！ 昨年の流行語大賞は「アレ(A.R.E.)」でした。阪神の岡田監督が優勝のプレッシャーをはねのけるために「アレ」と言ったのが始まりだそうです。その効果があったのか、阪神は日本一になったのです。これにヒントを得て、私は今年の目標を「アレ」にしました。毎年のようにニュースレターで、目標を公言しながら、達成できずにいた私。プレッシャーだったのかもしれません笑　ですから今年の目標は「アレ」にします。「アレ」は何かって？聞かないでください。プレッシャーになってしまいますから。こんな私ですが、今年一年も、どうぞお付き合いください。

今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。　(2024.01.01)

“普通”は普通？？

「そんなの普通だよ」と私。「普通って何？」と娘。「普通は普通」「だから普通って何？お父さんの普通と私の普通は違うの！」「･･･」

こんな会話を娘としながら、“普通”って何だろうかと改めて考えたのです。“普通”について調べてみると、「ごくありふれていること」「広く一般に通じること」などとありました。ですから、より多くの人が考えていること、行っていることが“普通”ということになるのです。ですから、それ以外の考え、行動は“普通”ではなくなります。こうなると“普通”は、単なる大多数の総意に他ならないことが分かるのです。

でも私たちは“普通”ということばを乱用しています。「これができるのは普通」「そんな風に考えるなんて普通じゃない」と。私も普通であろうと背伸びをしたり、無理して周りと合わせようとするときがあるのです。このように普通であろうとすればするほど、普通ではないことが起こると私たちは動揺します。どうにかして普通に戻そうとするのです。

けれど、そう簡単に普通には戻りません。普通であることを願えば願うほど、どんどん普通から遠ざかっていくような気もするのです。また周りと比べ、自分だけが普通ではなく、悲惨であるかのように思うときもあります。ユダヤ教のラビである H.S. クシュナー氏が「なぜ私だけ苦しむのか」という本の中で、次のような物語を紹介しています。

古い中国の物語に、一人息子を亡くした母親の話があります。彼女は深い悲しみのなかにあって一人の聖人を訪ね、次のように問いかけました。「どんな祈り、あるいはどんな呪文を唱えれば、私の息子が生き返ってくるでしょうか？」そうすると聖人は追い返したり諭したりするかわりに「悲しみを全く味わったことのない家庭へ行って、からし種を一つもらってきなさい。それを使って、あなたの悲しみを追い払ってあげよう」と告げます。

彼女はただちに、その魔法のからし種を探しに出かけました。

最初に大きな美しい邸宅にやってきて、門をたたいて言いました。「悲しみを全く味わったことのない家庭を探しています。お宅はそのような家庭でしょうか？･･･」その家の人たちは「ここはそんな所ではありません」と答え、ふりかかった悲しみの数々を話し始めました。それを聞いて彼女は「私よりもっと辛い目にあっているんだわ。誰か助けてあげられる人はいないでしょうか」と思いました。しばらくの間、彼女はそこにとどまって彼らを慰め、それからまた、悲しみを味わったこのない家庭のからし種を求めて旅立っていきました。

しかし宮殿であれ、掘っ立て小屋であれ、彼女は行く先々で悲しみと不幸を目の当たりにしたのです。結局、彼女は他人の悲しみに深く同情し、人々を慰め助けることに熱中するあまり、魔法のからし種を探していたことを忘れてしまいました。･･･

【H.S.クシュナー著「なぜ私だけが苦しむのか」岩波現代文庫】

私たちの救い主であるイエス様も、神様であられるのに、私たち以上に多くの苦しみを味わわれたのです。でもイエス様は、なぜこんなに苦しい目にあわなければならないのかと文句を言うことはありませんでした。私たちを愛するがゆえに、そして私たちの気持ちを誰よりも分かってくださるために、耐え忍んでくださいました。またイエス様は人の悲しみに寄り添ってくださり、ともに泣いてくださったのです。

このイエス様が今も、私たちの苦しみ、悲しみに寄り添ってくださいます。ですから私たちはどんなときにも、孤独ではないのです。イエス様が私たちとともにいてくださり、私たちを慰め、励ましてくださるからです。

これこそ私たちにとっての普通ではないでしょうか。苦しみにあわない、何も問題がないのが普通ではありません。私たちは生きている限り、つまずくこともあれば、嘆き悲しむこともある。今年一年も、それは決して変わらないでしょう。その時、私たちはただ嘆き悲しむのではなく、私たちを憐れんでくださるイエス様にお祈りできたら幸いです。

苦しみ、痛み、悲しみが全くない家庭など、一つもありません。ですから普通の家庭など、この世に存在しないのです。それぞれの家庭が様々な壁にぶつかり、それらを乗り越えようと必死に生きています。私の家庭もそうです。次から次へと与えられるチャレンジに向き合いながら、「何で自分たちだけ！」と叫びたくなることもあるのです。そして自分の何が悪かったから、こんなことになったのだろうかと自分を責めたり、周りのせいにします。

それにしても、なぜ私たちに苦しみが与えられるのでしょうか。どうして普通に生きられないのでしょうか。その確かな答えを、私は持ち合わせていません。けれど私たちが味わっている苦しみ、痛みは決して無駄にならないのです。聖書には、神様が「**意味もなく、苦しめ悩ませることはない**」と書いてあります。

また自分のことだけでなく、周りの愛する人たちも、同じように苦しみ、痛みを抱え、傷を負っていることを忘れないようにしたいのです。彼らの苦しみ、痛みに寄り添い、ともに泣き、ともに嘆き、ともに祈れる者となれたらと願います。このような愛の交わりこそ、私たちにとって何にも代えがたい幸せなのです。

恐れるな。わたしはあなたとともにいる。
たじろぐな。わたしがあなたの神だから。
わたしはあなたを強くし、あなたを助け、
わたしの義の右の手で、あなたを守る。

- 礼　　拝　　毎週日曜日 10：30～12：00
- 祈 祷 会　　毎週金曜日 10：30～12：00
- イズミン・キッズ　毎週日曜日　9：30～10：20
- おやこ de えほん　毎週水曜日 10：30～13：30
- Friendly English　毎週木曜日 9：30～11：50（大人向け）